



## 災害、戦争、死によって引き起こされるトラウマ

昨年2月に全世界を驚かせたロシア・ウクライナ戦争、10月7日からのイスラエル・パレスチナ戦争はどれも制止できない。人類の愚かさが最高潮に達している。最大の被害者は子ども、女性、高齢者などである。ガザ北部のアルアハリ・アラブ病院が17日に狙われた。よもやイスラエル軍は標的にしないだろうとハマスは思っていたのか、キリスト教聖公会系の病院である。その付近からイスラエル目がけて攻撃していたのだろうか。今、北のシリア国、レバノン国にもイスラエルは砲撃している。



シリア国アレppoは2011年から内戦、2023年2月6日の地震で貧しい人々が呻いている。  
Kaat Van Goubergen

イスラエル国家が1948年に突如としてパレスチナにできたのは、1917年に西側諸国、とりわけ英国の外相のバルフォア宣言に基づいている。紛争の原因である。イスラエル側は神との契約だからという理由で領土を支配し、パレスチナ人を追い出す。米国の福音派のクリスチャ

ンもイスラエルを擁護する。しかし、歴史を遡るとまちがった聖書解釈が紛争の原因であることが判明する。

創世記17章8節は、「私はあなたが身を寄せている地、カナンを、あなたとあなたに続く子孫にとこしえの所有地として与える。こうして私は彼らの神となる」。文脈の23節は立証している。割礼を受けた最初の者とは、アブラハムとだけだったのか。つまり「約束の地」について、「場」と時系列で有効であったのはだれか。「アブラハムは、息子のイシュマエル、家で生まれたすべての者、銀で買い取ったすべての者、すなわち、アブラハムの家の人々のうち、すべての男子を集め、その日、神が命じられたとおり包皮に割礼を施した」(23節)。「その子イシュマエルが包皮に割礼を受けたのは、十三歳の時であった」(25節)。アブラハム契約はイサクがまだ生まれていない時に成立した。割礼のしるしを有効にしたのはアブラハムとイシュマエルであった。すると8節の「とこし



イスラエルは10月12日以降、隣国のシリア、レバノンにも爆撃している

えの所有地」。「約束の地」はだれのものか。イスラエルだけのものではなく、イシュマエルも含まれる。現在のパレスチナ人とは、イシュマエルの子孫と考えられている。もっともユダヤ人もカナン(旧約で、神がイスラエルに与えたと言われる約束の地)人やペリシテ人(パレスチナ)という名称はここから来る)の流れに属する子孫もいる。パレスチナ人もユダヤ人の血が入っている。ユダヤ人とパレスチナ人は、ロシアとウクライナ両国と同様、明確な区別の線引きはできない。源頼朝と義経の殺し合い、織田信長や徳川家が身内で骨肉を争った兄弟げんかは洋の東西を問わない。

戦争、人類史最大の人道悲劇を国際機関、超大国、世界は制御不能だ。だからといって、孤児、戦争や被災により夫をなくした独身女性、高齢の独居者を見殺しにはできない。祈りは行動である。

民間の私たちが渡河して被災者に手を差し伸べるしかないだろう。支援ををお願いします。



「なぜシリア・ボランティアに行くのか」(記者会見 兵庫県庁記者クラブ) 2023年9月26日

※拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」第2集(WCER平和大学講座 2022年4、5頁)。

**ヤマザキ**  
世界のパン  
ヤマザキ

**Otsuka**  
株式会社 大塚製薬工場  
〒772-8601  
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115  
TEL 088-685-1151(代表)

**MIYOSHI**  
ミヨシ石鹸株式会社  
〒130-0021  
東京都墨田区緑3-8-12  
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ  
**TAKENAKA**  
竹中工務店  
〒541-0053 大阪府中央区本町 4-1-13  
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1



杷木町の文字社 2023年8月7日



奥山に建設した「山の神砂防ダム」は土砂が堆積して危険。さらに上の新たなダム工事に着工している。 2023年10月3日



## 球磨川（熊本豪雨）ボランティア

熊本支部長

大島健二郎

▼日本は地方を切り捨てる

都会だけがよければいいのか

8月7日、台風6号による悪夢が福岡県朝倉市杷木町を再び襲った。私たちは毎月、6年間、通い続けている。40人が犠牲になり、いまだに1人行方不明である。土木工事に約600億円の税金を用いて上流に砂防ダムをいくつも張りめぐらしている。河川工事、上流の砂防ダム建設、道路の復旧工事がなされてきた。出来レースの住民説明会があった。6年もかけてダンプが何台も通って住民は砂埃に耐えてきた。美しかった景観も損なわれた。神戸国際支縁機構は無用なダム建設についてずっと発信してきた。メディアもとおりあげない。その挙げ句の悲劇。社殿があった文字社は再び土砂に覆われた。機構の村上裕隆兄、野田健二兄、本田博之兄の3人は、啞然とした。

普段、穏やかな梶原明彦宮司（62歳）は、「許せない、人災だ」と声を荒げた。仮住まいの隣接の家のガス給湯器、家電製品なども使い物にならなくなった。1万円弱の見舞金が出るだけで被災の補償は一切ない。江戸時代からの稀覯書も泥に覆われ、損なわれた。社殿にもフレコンバッグが積み重なって人が住める状態ではなくなっている。国宝金明竹も跡形もない。

新たな砂防ダムを建設しようとしている。20億円はかかるだろう。被災者は生活のため、朝倉市役所、福岡県庁の行政にかけあっても相手にされない。泣き寝入りだ。近隣の幼なじみの藤玄洋さん（西宗寺住職）たちもボランティアにかけつけた。都会と異なり、超高齢化の過疎地は選挙の投票率が高い。〇〇先生がインフラ整備に中央からお金をとってくるという理由だ。つまり蜘蛛の巣のように張りめぐらした利権システムは地方から日本全体に巣くって

いる。中央の政治家、官僚、ゼネコンだけが高いびきである。これではいつになっても災害大国の汚名は返上できない。

### 稲刈り

2023年10月2日 熊本県球磨郡相良村

熊本県豪雨の日に神戸から救援にかけた。あれから3回目のコメを園児たちとつくる。田んぼには大きなゲンゴロウ、水カマキリ、きれいなイトトンボがいる。雑草をとるために農薬を用いないからだ。虫を殺すネオニコチノイド系農薬を遣わない米を用いてきた。小さなノコカマでサクッと稲を刈り、さおがけをする。天日干しである。機械で乾燥させないからミネラル豊かである。園児たちも楽しみにしている。今年は、もち米である。



『人吉新聞』（2023年10月5日付）

31年ぶり、  
ゼロから翻訳した新しい聖書

『聖書 聖書協会共同訳』  
—2018年12月発行—

全国書店にて  
好評発売中です  
[www.bible.or.jp](http://www.bible.or.jp)  
日本聖書協会



Spirit & Technology 湯川胃腸病院

胃腸科・小児科・泌尿科・皮膚科・眼科・耳鼻科・歯科・整形外科・形成外科・産婦人科・放射線科・検査科・理学療法科・作業療法科・言語聴覚科・栄養科・社会福祉科・介護科・在宅医療科・国際医療科・国際看護科・国際医療科・国際看護科・国際医療科・国際看護科

〒543-0033 大阪市天王寺区堂ヶ芝2丁目10番2号  
TEL:06-6771-4861 FAX:06-6771-4882

人によし、社会によし、未来によし。

ミヨシ油脂株式会社

〒124-8510 東京都葛飾区堀切4-66-1  
<http://www.miyoshi-yushi.co.jp>

KINSAN 夢に近づく 夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター  
0120-111-019







『石巻日日新聞』(2023年9月21日付)



『石巻かほく』(2023年9月26日付)

『石巻日日新聞』  
(2023年10月19日付)『東北テレビ』(TBC 2023年10月17日  
18:30～19:00 脱穀)

東北ボランティアは3つの柱がある。ひとつに、ウリハツキヨへの訪問、支縁物資を神戸から運ぶ。二つ目に、農・林・漁による「田・山・湾の復活」、今回は、12回目(第145次東北ボランティア)の稲刈りであった。三つ目に、独居高齢者への訪問である。ウリハツキヨには夜9時になってしまい、皆さんに会いさつがでなかつた。

コンバインを使わずに、手で稲を刈る。園児たちはノコカマである。田んぼの提供者である亀山繁さんが刈った稲の束を稲を用いて手品のように縛るのを園児たちは目を白黒させていた。そして稲架掛けにかける。今回も野田健二兄、堀浩一兄が暑い中、よくがんばってくださいました。

毎月お会いするのが楽しみな田口政夫兄。暑いときも、凍える寒い冬も、一年中、神社のきしたで生活をなさっている。2014年から家族である。

## 第145回、146回の東北ボランティア 稲刈りに歓声をあげる園児たち

2023年9月17日～20日

代表 村上裕隆

東北ボランティアは3つの柱がある。ひとつに、ウリハツキヨへの訪問、支縁物資を神戸から運ぶ。二つ目に、農・林・漁による「田・山・湾の復活」、今回は、12回目(第145次東北ボランティア)の稲刈りであった。三つ目に、独居高齢者への訪問である。ウリハツキヨには夜9時になってしまい、皆さんに会いさつがでなかつた。

コンバインを使わずに、手で稲を刈る。園児たちはノコカマである。田んぼの提供者である亀山繁さんが刈った稲の束を稲を用いて手品のように縛るのを園児たちは目を白黒させていた。そして稲架掛けにかける。今回も野田健二兄、堀浩一兄が暑い中、よくがんばってくださいました。

毎月お会いするのが楽しみな田口政夫兄。暑いときも、凍える寒い冬も、一年中、神社のきしたで生活をなさっている。2014年から家族である。

## 今では見かけない「稲こき機」を使って園児たちが脱穀

2023年10月

春から園児たち40人(5歳～6歳)が、トロトロ層づくり、田植えをしてきた。秋晴れの日、自分たちが育てたイネに稲こき機を使う。大正時代の道具で足を使つてドラムを回す。稲穂からパチパチと音をたてながら脱穀をした。主食のご飯を苗から食卓で食べるまでの農家の体験をした。どんなに大きな声を出しても迷惑にならない。豊かな自然に囲まれた田んぼには赤トンボが飛んでおり、とんび、サギ、セキレイもそばにいる。



『社説新聞』(2023年9月29日付)

## 『眞平家物語』五家荘の先祖(第九回)

熊本県球磨郡相良村教育長 緒方 俊一郎

第5代目は盛治である。

「盛数ト謀リ白鳥山ニ一社ヲ建テ平氏ノ遺物ヲ祭ル文治百十四年九月四日没ス」

と記録されている。先祖が落ち延びて住み着いた白鳥山に神社を立てて先祖の供養と神への感謝を捧げたのである。白鳥神社として現在も地域で祀られている。

なお、白鳥神社について球磨焼酎の高橋酒造「カンジンエッセイ」によると「平家の残党平清経が住まい、そのとき白鳥が槍を持参していた事に名前が由来する」ようだとなる。

第6代目を盛直といい、第7代盛季については次のような記録がある。

「盛季・八郎ト称ス 盛治ノ三男 兄盛直子ナシ依テ跡ヲ継ク強力アリ曾テ猪鹿ヲ博ツ文治百四十二年熊ヲ打博チ深底ニ落ツ遂ニ熊ヲ獲ルト雖モ骨折テ癒ヘス同年七月三日歿ス」

食料は山菜を取り貯蔵し、焼畑により稗や粟を栽培し、猪や鹿などの獣を狩ってその肉を食べ、皮はなめして衣類等に、あるいは物々交換(特に塩は手に入りにくいものであった)に当てていたのであった。

焼畑については、2018年7月11日の「九州脊梁通信」『五木村下梶原川と焼畑の村』をそのまま引用させてもらう。

「下梶原は、五家荘久連子地区から移り住んだ人々によって開かれた。『下梶原のあゆみ』(嶽本一男)によると、江戸時代中期の享保16年(1731)、久連子では、焼畑の生産能力を超えて人口が増え、村民27名が宮園、入鴨、中道、下梶原(いずれも現在の五木村)に水上村などに移住している。その時、下梶原には9名が定住。旦那(地主)の梶原椎葉家のもとで、名子(なご)として焼畑や山仕事に就いたとされる。

下梶原に転機が訪れるのは、昭和14年(1939)のことである。熊本県が下梶原地区を分収林としたため、椎葉家から1戸当たり10町の山林が名子へ無償分与された。

下梶原では、本畑を蕎(そば)、稗(ひえ)、小豆(あずき)、粟(あわ)の順に4年間耕作し、他に麦畑と野菜畑があった。焼畑とするのは年間1町分である。焼畑のサイクルは30年で、そのため1戸30町が必要であった。それが実現したのは、戦後の農地解放令によってである。

少し本題から離れたようであるが、五家荘の暮らしの一端がこの通信からも窺える。筆者は1970年～80年代に下梶原地区にも往診していたが、山深い下梶原川の清冽な水と秋の紅葉の美しさに心を奪われたものであった。集落には竹の川から下梶原川を少し遡った三浦地区の三浦小学校の下梶原分校もあった。ある夏、子どもたちをつれて三浦小学校近くの下梶原川で遊んだ事があった。真夏の太陽の下で清冽で冷たい梶原川で遊びに子どもたちは大はしゃぎであった。トンボがヤゴから羽化するのを見たのも印象的であった。



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12  
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124  
URL: www.tamanohada.co.jp

Humanity First

「ヒューマンティファスト」  
日本アハマディア・ムスリム協会弁護士法人  
芦屋西宮市民法律事務所

津久井 進

日弁連災害復興支援委員会委員長  
兵庫県弁護士会前会長

TEL: 0798-68-3161

ミヨシ共栄株式会社

東京都墨田区緑3丁目8番12号

## 事務局便り

理事長 本田寿久

北上川（岩手・宮城）は、洪水によって河川流域の土地を肥沃にして作物を实らせてきた。一方、洪水により、人命や家屋の犠牲も避けることはできなかった歴史もあった。東北ボランティアを通じて、水害を防ぐために人身御供、人柱のいたたましい記録を知った。そこで今から5年前、2018年8月22日、人柱の伝承がある「お鶴明神」（宮城県登米市中田町）という祠に、宮城神社本庁に前理事長岩村義雄代表は許可をとった。鎮魂のために、大國龍坐（伊去波夜和氣命神社）宮司と吉野雄一（渡波地区振興協議会）会長をお連れした。しかし、人柱説について、「工事を堅固にするために、その底に人間を生埋にするというのが真の意義……人柱伝説は一から十まで純粹の空想的産物」と否定する見解もある『日本神話伝説の研究2』（高木敏雄、大林太良編 東洋文庫 平凡社 1988年173頁）。



左 岩村義雄代表 右 大國龍坐宮司  
2023年10月17日

一方、第146次東北ボランティアで人柱について、フェイスブックで報告すると、反響が大きかった。日本の民俗学者である柳田國男[1875-1962]、折口信夫[1887-1953]、南方熊楠[1867-1941]の民間伝承に歴史的事実があるという声が寄せられた。

神戸国際支縁機構は大國宮司に田んぼの祝詞をあげてもらうだけでなく、12年のおつき合いをさせていただいている。とても親しくさせていただいている。人柱にしても、大國宮司はなにごとともあいまいにする風潮が日本をだめをしていると辛口であられる。お二人はいつも童心に帰って話せる貴重な間柄である。

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

## ・郵便振替

口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

## ・三菱UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には書ける方は『国名』を書き添えてください。

## (一社) 神戸国際支縁機構

## ボランティアや移住者募集中

農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。

## 被災地への支縁物資もお願いします。

## 年会費をお願いします。(月に200円)

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

## 海外の孤児のために支縁金をお願いします。

「小さくされた人々のための福音」講座  
毎月第3金曜日  
午前10時～  
神戸学生青年センター  
本館1階

岩村義雄セミナー  
毎月第4月曜日  
午後6時半～  
ミント神戸17階

## 編集後記

2016年4月16日、熊本地震が発生すると熊本県から依頼で愛児園で炊き出しに神戸国際支縁機構は仕えた。私は、単身、建設現場でパートをしながら被災地でボランティアを続けた。勤務していた朝日創建で、モルジブ人ナジャーフ・モハメドさんと親しくなった。ところがナジャーフさんが2021年12月に温泉施設で二人の少年に性的暴行したために、「少年は多大な精神的苦痛を受けていて刑事責任は重大」として、少年の下半身を触ったという証言だけで、懲役4年6か月の実刑判決という報道に接し、目の前が真っ暗になった。なぜならナジャーフさんは異国の地に来て、日本語も流暢でないからである。友として慰めるために、2023年10月8日、収監されているとおぼしき熊本刑務所を探した。そこにおられた。奥さまは毎日面会に来ている。10歳になる息子さんもいる。裁判は本人が容疑を否認しているにもかかわらず、判決があり、投獄された。私が面会にきた唯一の日本人であり、ナジャーフさんはたいそう喜ばれた。無実であろうとなかろうと、外国人に偏見をもちやすい空気がある。引き続き、交通費、時間、体力を使って、ナジャーフさんをいたわり、ねぎらう働きを続けていきたい。

事務局 大島健二郎



『神戸新聞』(2016年6月30日)

## 救援金、維持会費のご協力を感謝します。(敬称略)

2023年7月16日～10月19日

岩村義雄、神戸国際キリスト教会、本田商会(6)、佐々木美和、日本自由メソヂスト葛城キリスト教会、清水孝紀、保田 薫、沖浦宏隆(千葉県布良)(3)、有田貞一&美栄子(3)、羽柴 修、辻 良雄、服部良一、村田優美子、嶋田博信&礼子(千葉県布良)(2)、柳澤 豊、大島健二郎(5)、阿部和夫&斉子(宮城県石巻市)(2)、兵頭晴喜、河村ひとみ、千葉幸一(宮城県石巻市)(4)、保田 茂、土手ゆき子、土手 朋、木村ふみ子(石巻市)、宝塚栄光教会(3)、岩間 洋&千恵子(3)、袴田康裕、吉田 隆、緒方真喜代(熊本県相良)、田中順子、前川和弥&幸子(4)、岩本久吉&眞子(福岡県松末)(2)、石井万紀子、酒巻美和子、「小さくされた人々のための福音」講座(2)、野田健二(3)、祐照寺(古川真照住職)、鈴木敏夫、小笠原貞夫、大野祐弥、日本基督教団神戸栄光教会、高野國昭、竹内喜子、中條和子、第3回目神戸在住ウクライナ人の集い、石井泰代、民部綾子、庄司慈明(宮城県石巻市)、吉持志保、守屋香代子、石川久子、今井奈緒子、高 祐二、宮本博美、北村敏泰、武智 務、阿部艶子、松崎 徹、金 恒勝、辻本久夫、中山圭子、大嶋善直、岸本 豊、岡部 徹、鄭 恵姫、菅原千春、畑中裕子、小島千鶴、春原和子、島田 徹、館山市勝蔵寺(田口秀明住職)、井本敦幸、池田裕子、岡 満恵、今村佳代子(佐賀県大町町)、藤野知香、森川正美、鳥飼トモ子、生活協同組合コープ神戸、武田多美、秋田喜代子、大沢友子、泉 晴代、Prince Amankwah (Ghana)、永野由美子、西上千栄子(3)、Sora Cho、大田次郎、大槻良文、川西一市民、吉俣正光(2)、佐藤紀子(宮城県多賀城)、白瀬悦子、櫻井由里子、南部隆三、佐々木延弘(西光院住職)、神戸ユニオン教会、湯川紘美、日本キリスト教団芦屋三条教会、佐々木駿介、藤原りつ子、坂井良行(高野山真言宗西方院住職)、左成和朗、古川直子、ブイ・ティ・オアン(神戸ベトナム人会会長)、バルク良子、神戸聖福教会、李敬淑、合同会社 Bless 泉 真姫、古川和子 512,750円

フードバンク関西、佐藤金一郎&晴美(宮城県渡波)からオロナミンC(2)、本田寿久から車載冷蔵庫、徳留由美から薩摩名物、松末地域コミュニティ協議会からニンニク、梶原ミズミ(福岡県松末)からしいたけ、山下 寛&弘美からそうめん、前川和弥&幸子から茶菓、生活協同組合コープ神戸からコメ、山下商事(熊本県相良)から梨、養毛良介&かず子(熊本県相良)から柿など。Andy Hayhurst、Serhii Lesniak、Anna Shevtsivから靴下など、山本 稔(イエス・キリスト聖伝道教会)から梨、バルク良子から寿司、丹野典彦(宮城県石巻市)から海苔、長浜幼稚園からお茶、梶原ミドリ(福岡県松末)からコーヒーなど、堀 真由美(福岡県松末)から菓子、樋口喜寿江(福岡県松末)からニラなど、出井洋子(福岡県松末)から栗、ブイ・ティ・オアン(神戸ベトナム人会会長)から菓子、小谷福哲&由喜枝(千葉県布良)からお茶、愛沢伸雄(千葉県館山市)から資料、丹野美樹子(宮城県渡波)から焼海苔など

## 第38回 日韓交流信徒大会

日 時: 2024年1月8日(月・成人の日) 10時半～15時  
講 師: 岩村義雄  
会 費: 2,000円(学生1,000円)(昼食代を含みます)  
会 場: 日本基督教団 甲東教会  
住 所: 西宮市甲東園1丁目2-15 阪急今津線甲東園駅 東へ徒歩2分  
電 話: (0798) 51-0454  
主 催: 日韓交流信徒大会実行委員会  
在日大韓基督教西部地方会宣教協力部  
日本基督教団兵庫教区 在日大韓基督教教会宣教協力委員会



相撲を通じて青少年の豊かな心身の育成にとり組んでいる「第32回石巻わんぱく相撲選手権大会」が明神社相撲場で開催された。石巻市内の小学校6年生までの29人が出場。例年、神戸国際支縁機構も協賛に加わらせていただいている。相撲には勝利主義はない。